

## 平成 30 年度第 2 回「医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会」を開催しました！

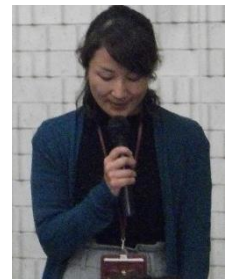
平成 30 年度第 2 回『医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会』を平成 30 年 11 月 14 日（水）に、JA 会館 大ホールにて開催しました。甲府市西地域包括支援センター、甲府市北東地域包括支援センター及び甲府市北西地域包括支援センターの支援エリアに所在する医療機関、介護保険サービス提供事業所等を中心に、187 名の方にご参加いただきました。



進行役  
佐藤 治美氏

交流会の進行を甲府市北西地域包括支援センターの佐藤 治美氏、話題提供を山梨県中北保健福祉事務所の小坪 真由美氏、事例提供を甲府市北東地域包括支援センターの小野 麻理氏に務めていただき、交流会を進めました。

話題提供では、今年度の共通事項として『介護保険法改正からみる多職種連携のあり方』について、診療報酬と介護報酬の同時改定による医療と介護の連携強化と相互理解、多職種間の横のつながりと同時に同一職種間のつながりを意識した情報共有の大切さをお伝えいただきました。



話題提供者  
小坪 真由美氏

その後の座談会では、先の話題提供の『情報共有』を踏まえた事例を通じ、多職種の連携について真剣に考えました。

事例の対象者に対し、住み慣れた地域の中で暮らし続けることができる支援を行うにあたり、どのような情報が欲しいのか、また、その情報をどの職種からもらうことができるのか、参加者の皆さんで活発に意見交換をしました。



事例提供者  
小野 麻理氏

座談会終了後、各グループで行われた意見交換の内容について発表していただきました。

発表者からは、「情報共有と連携の際には、病院で出来ること・在宅で出来ることなど、まずはそれぞれで出来ること・出来る範囲を共有することが重要ではないか」という意見や、「服薬する薬が多かったり、その服薬管理が難しかったりする場合、薬剤師の立場を活かし、多職種と連携して服薬量を減らせるよう、薬に関する課題・問題に支援をしたい」という意見など、『情報共有』『多職種連携』をキーワードとした感想や意見を多くいただきました。



その後、参加された医師・歯科医師・保健師から、交流会の講評をいただきました。その中でも保健師からは「3つの地域包括支援センターのエリアでの合同開催によって、普段はあまり連携を取ることはない他のエリアの方々や、医師・歯科医師・薬剤師・リハビリテーション職など、様々な職種から多くの参加があり、大変有意義なものであったと思う」「今後、情報共有の際には今回のグループワークのテーマでもあった、『どのような情報が、なぜ欲しいと思うのか』という点を意識することで、それぞれの職種の専門性が見えてきて、連携がよりスムーズになるのではないか」



という多職種連携への想いが語られました。

最後に進行役より、「顔が見えても関係性がなければ、名前や人となりをお忘れてしまうが、今回のグループワークを通じて、顔が見えるだけでなく、その方や、その職種の思いを汲み取ることが出来たかと思う」「明日からの医療と介護の連携をスムーズに出来る潤滑油となるよう、今回の座談会を活かしていきましょう」と締めくくっていただき、交流会は盛会のうちに終了しました。

## 交流会の様子を 掲載します！

